

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																														
東京バイオテクノロジー専門学校		昭和63年2月26日	大谷 啓一		〒144-0032 東京都大田区北糀谷1-3-14 (電話) 03-3745-5000																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																														
学校法人 東京滋慶学園		平成25年4月1日	中村 道雄		〒143-0016 東京都大田区大森北1-18-2 (電話) 03-3763-2211																														
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																													
農業	農業専門課程	バイオテクノロジー科4年制			-	平成21年2月27日文科科学省告示第25号																													
学科の目的	当該課程の目的は、核酸、たんぱく質の研究現場、あるいは、医療とその研究のために動物細胞培養、実験動物取扱、分析と研究の成果が活用される現場での仕事に必要な専門知識と技術を持ち、主体的に仕事ができる実験技術者を養成する。																																		
認定年月日	平成27年2月17日																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
4年	昼間	3,738時間	1,315時間	618時間	3,480時間	0時間	0時間																												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																													
160人		189人	4人	8人	18人	26人																													
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ・2019年度以前 A(80点～100点)・B(70点～79点)・C(60点～69点)・D(59点以下) C以上で合格、Dで不合格 ・2020年度以降 A(100～90点)・B(89～80点)・C(79～70点)・D(69～60点)・F(59点以下) ■成績評価の方法について 試験の結果、出席状況、学習態度、実習状況、レポートで評価する																														
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月10日 ■春季: 3月21日～4月5日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	■成績評価 2019年度以前 C以上/2019年度以降 D以上 ■出席日数・習得時間数 授業時間の70%以上で不合格がないもの																														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 担任から家庭への定期的な電話連絡の他に、必要に応じて、個人面談、三者面談を実施する			課外活動	■課外活動の種類  ■サークル活動:																														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 大学等研究室機関、遺伝子治療施設、医薬系企業、再生医療研究施設、実験動物取扱研究施設、細胞培養研究企業施設 ■就職指導内容  就職対策講座を行い、履歴書の書き方、面接練習、筆記試験対策を実施  ■卒業生数 33 人 ■就職希望者数 31 人 ■就職者数 31 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 93.9 % ■その他 ・進学者数: 2人 愛媛大学大学院、東海大学大学院			主な学修成果(資格・検定等)※3  <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>毒物劇物取扱責任者</td> <td>③</td> <td>38名</td> <td>29名</td> </tr> <tr> <td>中級バイオ技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>32名</td> <td>31名</td> </tr> <tr> <td>上級バイオ技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>34名</td> <td>13名</td> </tr> <tr> <td>実験動物2級技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>14名</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>実験動物1級技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>知的財産管理技能検定3級</td> <td>③</td> <td>30名</td> <td>4名</td> </tr> </tbody> </table>	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	毒物劇物取扱責任者	③	38名	29名	中級バイオ技術者認定試験	③	32名	31名	上級バイオ技術者認定試験	③	34名	13名	実験動物2級技術者認定試験	③	14名	8名	実験動物1級技術者認定試験	③	0名	0名	知的財産管理技能検定3級	③	30名	4名	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)  ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																
毒物劇物取扱責任者	③	38名	29名																																
中級バイオ技術者認定試験	③	32名	31名																																
上級バイオ技術者認定試験	③	34名	13名																																
実験動物2級技術者認定試験	③	14名	8名																																
実験動物1級技術者認定試験	③	0名	0名																																
知的財産管理技能検定3級	③	30名	4名																																
(令和 3 年度卒業生に関する令和4年5月1日 時点の情報)																																			

	<p>■中途退学者 7 名 ■中退率 3.9 %</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者181名(2021年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者172名(2022年3月31日卒業者を含む)</p>
中途退学の現状	<p>■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由による学業継続困難、精神的理由による学業継続困難</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 中退防止: 電話連絡・個人面談・三者面談実施及びSSC: スチューデントサポートセンター(学校カウンセラー)との連携強化 中退者支援: 転校支援</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・ 無 特待生試験の成績による減免(入学時のみ)</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ・ 非給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ・ 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	URL: <a href="https://www.bio.ac.jp">https://www.bio.ac.jp</a>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・研究所との連携について、従来、学科の養成目的(学生が卒業時に身につけておくべき能力)実現にむけ、学校の教職員と業界で活躍をしている兼任教員(非常勤講師)が、講師授業科目の開設や授業内容の改善を図るため、年2回の講師会議を開催していました。また、学生の卒業年次においては、非常勤講師以外の業界関係者も招聘し、学生の卒業研究内容を評価してもらう取り組みも行っていました。教育課程編成委員会においては、業界関係者からの意見も、より詳細に教育内容に反映させることを目的とします。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校の教育課程編成委員会は理事会のもとに設置され、委員会の適切運営は学校長が担保することになっています。また、学校運営においては、教務組織規則において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従い、委員会を運営します。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
村山 洋	麻布大学 生命環境部	令和4年4月1日～令和6年3月31日	①②
勝田 真一	一般財団法人 日本食品分析センター	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③
大貫 敏彦	NPO法人環境サステナブルリサーチラボ	令和4年4月1日～令和6年3月31日	①②
木崎 康造	公益財団法人 日本醸造協会	令和4年4月1日～令和6年3月31日	①②
福富 竜太	株式会社 樋口商会	令和4年4月1日～令和6年3月31日	③
小川 昭久	学校法人 東京滋慶学園 理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日	
大谷 啓一	東京バイオテクノロジー専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	
関口 崇之	東京バイオテクノロジー専門学校 事務局長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	
小室 真保	東京バイオテクノロジー専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	
杉田 佑輔	東京バイオテクノロジー専門学校 キャリアセンター長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)年2回(5月、11月)

(開催日時)

第1回 2022年5月25日 14:00～16:00

第2回 2022年11月16日 14:00～16:00開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

以前、大貫委員から提案の企業と共同した教育システムとして、細胞培養技術者の資格化は進んでいる。知識・技術だけでなく、社会で生きていく学びを提供できるよう、メンタルの強さの育て方、失敗からの立ち直り方も在学中の学びとして、人間力向上の仕掛け作りや、資格取得の重要性を認識させ、目標設定を持たせることで在学中の取り組み方や、自身のキャリア設定を明確にするなどのご意見を頂き、カリキュラム、授業内容の見直しを図っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、卒業後の業界に直結した職業人教育を行うため、業界と連携し、ともにスペシャリストを育成することを目的としています。このため、特に実習科目に置いては、現場で活躍をするプロが非常勤講師として授業を行うなど、卒業後即戦力をして活躍できる人材を養成するための授業内容を、業界関係者とともに企画、立案、実施、達成度評価を行います。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業・研究所と講師業務委託契約を交わした上で、企業・研究所から派遣されたプロの人材が非常勤講師として、授業を実施しています。この際、講義授業は、講師がシラバスを作成・学校との協議を経て確定した講義内容を展開しています。また実習授業では、講師による指導に基づき学生が実践、業界で必要なレベルまで技術を磨いています。学科専任教員と情報共有を行い、クラス運営における適切な問題解決をに役立てるとともに、今後の授業内容の改善にも役立てることを目的としています。

さらに、企業・研究所において、学外実習(インターンシップ)を行い、企業・研究所の実習担当指導のもと、現場で必要な技術の仕上げと、コミュニケーションの向上を行っております。また、このインターンシップは、卒業論文にも連動しています。

こうした企業との緊密な連携に基づいた本校における授業の集大成として、卒業研究発表会(※)を実施しています。それぞれの学生が企業・研究所から与えられたテーマに基づき卒業研究を行い、その発表をポスター発表の形で外部に向けて、実施しました。

(※)今年の卒業研究発表会は、オンデマンドで実施。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
卒業研究Ⅰ	卒業研究テーマについて、目的を明らかにし、実験計画をたて、実験、解析を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京女子医科大学 医学部 神経生理学分野</li> <li>・慶応義塾大学医学部 先端医科学研究所 脳科学研究部部門</li> <li>・東京大学 医学部 整形外科学教室</li> <li>・日本歯科大学 生命歯学部 共同利用研究センター</li> <li>・国立がん研究センター研究所 基礎腫瘍学ユニット</li> <li>・東京大学 網膜発生・疾患病態学</li> <li>・横浜市立大学 再生生物科学研究室</li> <li>・国立がん研究センター研究所 免疫創薬部門</li> <li>・東京大学大学院 農学生命科学研究所 植物栄養・肥料学研究室</li> <li>・株式会社 キーストーンテクノロジー</li> <li>・埼玉大学 環境制御システムコース遺伝子環境工学研究室</li> </ul>
卒業研究Ⅱ	卒業研究テーマについて、目的を明らかにし、実験計画をたて、実験、解析を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京女子医科大学 医学部 神経生理学分野</li> <li>・慶応義塾大学医学部 先端医科学研究所 脳科学研究部部門</li> <li>・東京大学 医学部 整形外科学教室</li> <li>・日本歯科大学 生命歯学部 共同利用研究センター</li> <li>・国立がん研究センター研究所 基礎腫瘍学ユニット</li> <li>・東京大学 網膜発生・疾患病態学</li> <li>・横浜市立大学 再生生物科学研究室</li> <li>・国立がん研究センター研究所 免疫創薬部門</li> <li>・東京大学大学院 農学生命科学研究所 植物栄養・肥料学研究室</li> <li>・株式会社 キーストーンテクノロジー</li> <li>・埼玉大学 環境制御システムコース遺伝子環境工学研究室</li> </ul>

<p>遺伝子解析実習</p>	<p>遺伝子解析の原理を学び、その基本技術を習得する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方独立行政法人神奈川県産業技術総合研究所 食品機能性評価グループ</li> <li>・東京工業大学 大隅研究所</li> <li>・国立感染症研究所 細菌第一部</li> <li>・順天堂大学 医学部 熱帯医学・寄生虫病学講座</li> <li>・国立成育医療センター研究所 再生医療研究部</li> <li>・国立遺伝学研究所 多細胞構築研究室</li> <li>・東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ワクチン科学分野</li> <li>・国立研究開発法人理化学研究所 植物免疫グループ</li> <li>・理化学研究所 環境資源科学研究センター 植物免疫研究グループ</li> </ul>
<p>遺伝子解析法</p>	<p>生命現象をつかさどる遺伝子やその産物であるタンパク質の構造および機能を解析するための様々な解析法について学ぶ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方独立行政法人神奈川県産業技術総合研究所 食品機能性評価グループ</li> <li>・国立感染症研究所 細菌第一部</li> <li>・順天堂大学 医学部 熱帯医学・寄生虫病学講座</li> <li>・国立成育医療センター研究所 再生医療研究部</li> <li>・国立遺伝学研究所 多細胞構築研究室</li> <li>・東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ワクチン科学分野</li> <li>・国立研究開発法人理化学研究所 植物免疫グループ</li> <li>・理化学研究所 環境資源科学研究センター 植物免疫研究グループ</li> </ul>
<p>タンパク質解析実習</p>	<p>タンパク質解析のための実験技法を習得する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理化学研究所 脳神経科学研究センター 神経変性疾患連携研究チーム</li> <li>・東海大学 医学部 基礎医学系分子生命科学 亀谷研究室</li> <li>・国立感染症研究所 戸山舎治療薬・ワクチン開発研究センター</li> <li>・東京工業大学 大隅研究所</li> <li>・株式会社 ニッピ</li> <li>・東京医科歯科大学難治疾患研究所免疫疾分野</li> <li>・東京大学アイソトープ総合センター研究開発部門 秋光研究室</li> <li>・理化学研究所 環境資源科学研究センター 植物免疫研究グループ</li> </ul>

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教員研修規定において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営方法の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めています。中途退学防止に向けて「学生一人ひとり」に対する対応案の企画立案、実施、評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心にすえ、ファカルティ・デベロップメント活動を推進する専任教員に対し、以下の要素が年間を通じた授業内容に反映されるように研修を行いました。

①キャリア教育の視点 ②カリキュラム改善、教育技法の改善

さらに、専任教員と兼任教員で組織する講師会議に置いて、この方針を共有し、シラバス内容のチェック、教育技法改善に向けた研修を行っている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

【研修①】

実施日:2021年7月15日 対象者:専任教員  
主催:滋慶教育科学研究所 バイオサイエンス教育部分科会  
内容:細胞培養技術試験内容、実施について

【研修②】

実施日:2021年9月2・3日 対象者:専任教員  
主催:日本組織培養学会 内容:日本組織培養学会第93回大会参加

【研修③】

実施日:2021年10月21日 対象者:専任教員  
主催:滋慶教育科学研究所 バイオサイエンス教育分科会  
内容:細胞培養技術試験結果報告

②指導力の修得・向上のための研修等

【進路アドバイザー研修】

実施日:2021年8月24日 対象者:専任教員  
主催:滋慶教育科学研究所  
内容:進路変更の現状と今後の在り方について考える共に、他校の実践的な取り組みから、進路アドバイザーとしての役割を再検討する

【マネジメント研修】

実施日:2021年10月19日 対象者:事務局長・教務部長・学科長・センター長  
主催:滋慶教育科学研究所  
内容:withコロナ・after コロナ時代におけるマネジメントについて参考にし、教育に活かす

### (3) 研修等の計画

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

##### 【研修①】

実施日: 2022年7月・10月予定

主催: 滋慶教育科学研究所 バイオサイエンス教育分科会

##### 【研修②】

実施日: 2022年7月7・8日予定 対象者: 専任教員

主催: 日本組織培養学会

内容: 日本組織培養学会第94回大会

##### 【研修③】

実施日: 2022年6月予定 対象者: 専任教員

主催: 滋慶教育科学研究所

内容: FDマイクロレベル(フォローアップ研修)

- ・授業リフレクションの進め方。コーチングスキルを用いた事例検討
- ・クラスの成長を促すコーチングの基礎を学び、実践することができる
- ・実際の授業の振り返りを行い、授業改善の工夫ができる

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

##### 【研修①】

実施日: 2022年9月予定 対象者: 専任教員

主催: 滋慶教育科学研究所

内容: 教職員カウンセリング研修

カウンセリングマインドを身につけて、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指す

##### 【研修②】

実施日: 2022年10月予定 対象者: 事務局長・教務部長・学科長・センター長

主催: 滋慶教育科学研究所

内容: マネジメント研修

職業教育におけるマネジメントスキルについて

##### 【研修③】

実施日: 2022年5月16日・6月3日実施 7・8月予定 対象者: DX推進担当者

主催: 滋慶教育科学研究所

内容: DX研修

教育とAIなど、DX(デジタルフォーメーション)の取り組みを推進する

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」  
関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校における自己点検自己評価を外部の目から見てチェックを頂き、考えの足りない部分をご指摘いただくのが大きな趣旨である。それに加えて、年度当初に立てた重点項目が年度の間および終了時点で達成されているかどうかを学部の視点でご評価を頂き、次年度以降の学校運営に役立てていきたい。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

今回の学校関係者評価結果ならびに委員会での意見については、理事会や学内の運営会議などの意思決定機関にフィードバックされ、翌年度における重点課題への反映及び、具体的な取り組みに落とし込んでいく。  
今年度においては、卒業して業界で働いたときに、技術、知識の学び以外にも、コミュニケーション力、人間力も在学中に備えていけるように、フロー作成し、現在、検証をしている部分でもあるので、ブラッシュアップを図っていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
有賀 春夫	ユニオンケミカル株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日	卒業生
阿部 正己	本校在学生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日	保護者
森 章	拓殖大学紅陵高等学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日	高校関係者
吉岡 正弘	島根県立松江農林高等学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日	高校関係者
加世田 光義	おおた農水産業研究会	令和4年4月1日～令和6年3月31日	地域関係者
池田 昭	ノベールファーマ 株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://www.bio.ac.jp/school/judgment>

公表時期: 令和4年6月15日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の情報提供は、基本的にはホームページを通じて行っている。これは企業をはじめとする業界諸氏についても同様である。提供する情報については学校の紹介に始まり平素の学校教育について、その取り組みを配信している。これにより企業等との連携が生じ、学校教育や就職の支援などの充実につなげていくことを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の入学定員・養成目的
(3) 教職員	教職員構成・理事名簿
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育活動
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	財務諸表等
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	国際連携の状況
(11) その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.bio.ac.jp/school/judgment>

授業科目等の概要

(農業専門課程 バイオテクノロジー科4年制) 2022年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				導入研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	目的を持って学校生活をスタートできるよう、職業人としての心構えを習得する。	1 前・後	53	3	○		○	○	○		
○				コミュニケーションとプレゼンテーションⅠ・Ⅱ	職業人としてのコミュニケーションとプレゼンテーションの基本を習得する。企業見学で適切な行動を学ぶ。	1 前・後	60	4	○		○	○	○		
○				PC 文書作成とデータ処理	パソコンソフトであるWordの操作法を習得する。	1 後	30	2	○		○			○	
○				バイオ英語Ⅰ・Ⅱ	バイオテクノロジー分野の関わる英語の基本単語を学ぶ。	1 前・後	60	4	○		○			○	
○				生物	細胞のつくりから生物における物質代謝、恒常性の維持を学ぶ。	1 前	30	2	○		○			○	
○				化学	原子、分子、化合物の化学的概念と溶液の性質を学ぶ。	1 前	30	2	○		○			○	
○				生体高分子化学Ⅰ	生体を構成する高分子化合物と、それを構成する原子、分子について学ぶ。	1 後	30	2	○		○			○	
○				生化学Ⅰ・Ⅱ	細胞および細胞内器官の構造と働きを学ぶ。また、生体エネルギーも学ぶ。	1 前・後	60	4	○		○			○	
○				微生物学Ⅰ・Ⅱ	微生物の分類と特徴を学ぶ。各論(菌類)、微生物の代謝を学ぶ。	1 前・後	60	4	○		○			○	
○				実験の基礎と化学計算	実験を安全に行うための基礎知識(試薬、緊急時、基本的器具機器)、実験で必要とされる数字の扱い、濃度計算の基本を学ぶ。	1 前	30	2	○		○			○	
○				分子生物学Ⅰ	生物の概念、細胞、DNA、RNA、タンパク質を学ぶ。	1 後	30	2	○		○			○	
○				遺伝子工学Ⅰ	遺伝子操作を行なう際に必要な方法の原理を学ぶ。	1 後	30	2	○		○			○	
○				毒物・劇物Ⅰ	毒物劇物取扱者試験合格を目指す。	1 後	15	1	○		○			○	
○				生物実習	植物、動物の細胞および形態的特徴を観察を通して学ぶ。	1 前	60	2		○	○			○	
○				基礎化学実習	実験器具・機器の取扱と試薬調製法を習得する。	1 前	60	2		○	○			○	
○				微生物実習	微生物の培養、観察を通して微生物取扱の基本操作、観察技術を習得する。	1 前	60	2		○	○			○	
○				基礎分析化学実習	分析化学の基本実験を通して実験操作技術の基本を習得する。	1 前	60	2		○	○			○	
○				動物細胞実習	動物細胞の培養法を習得する。浮遊細胞や付着性細胞の取扱いを習得する。	1 後	60	2		○	○			○	
○				生化学実習Ⅰ・Ⅱ	糖質、タンパク質、酵素反応を実験を通して学ぶ。クロマトグラフィーの原理、生体成分の抽出・定量法や性質、機能の評価法を学ぶ。	1 後	120	4		○	○			○	
○				基礎遺伝子実習	核酸の抽出、電位泳動、制限酵素処理などの基本操作、原理を学ぶ。	1 後	60	2		○	○			○	
	○			基礎講座Ⅰ・Ⅱ(計算基礎)	化学計算に必要な計算の基礎、考え方、組み立て(式の成り立ち)を学ぶ。	1 前	30	2	○		○		○		
○				プロ養成講座Ⅰ・Ⅱ	求められている職業人像やインターンシップについて理解する。インターンシップを具体的に考え、さらにインターンシップと将来像を結びつけて理解をするとともに必要な資質を学ぶ。	2 前・後	60	4	○	○	○			○	
○				PCデータ処理とプレゼンテーション	パワーポイントの基本操作を習得する。図表の作成の基本操作を学ぶ。	2 前	30	2	○		○			○	
○				PCデータ処理とデータセキュリティ	データ処理に役立つ関数について学び、実験データの処理などに活用する。	2 後	30	2	○		○			○	
○				毒物・劇物Ⅱ	毒物劇物取扱者試験問題の関連法規や化学物質の性質を問題演習を通して整理し、理解する。	2 前	15	1	○		○			○	
○				中級バイオ対策Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	中級バイオ技術者認定試験の対策を行う。	2 後	45	3	○		○			○	
○				海外研修	海外の研究現場や分子生物学的手法の学習環境での体験を通して、国際的な感覚を持つ。	2 後	40	1	○		○	○			
○				海外研修事前研修	海外研修参加につき、事前に知識・情報を身につける。	2 後	15	1	○		○	○			
○				分子生物学Ⅱ	真核生物の染色体構造および細胞の維持と調節機構を学ぶ。	2 後	30	2	○		○			○	
○				遺伝子工学Ⅱ	宿主・ベクター、遺伝子ライブラリー、遺伝子解析法を学ぶ。	2 前	30	2	○		○			○	
○				生物統計	実験データの取扱いとデータの統計処理を学ぶ。	2 後	15	1	○		○			○	
○				科学英語Ⅰ・Ⅱ	遺伝子工学、細胞培養、タンパク質工学などの実験手順を英文で学ぶ。	2 前・後	60	4	○		○			○	

(農業専門課程 バイオテクノロジー科4年制) 2022年度															
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			薬学概論	バイオテクノロジー分野に関連する薬学のトピックスを学ぶ。	2 後	30	2	○			○		○	
	○			生体高分子化学Ⅱ	生体高分子の構造と機能の原理を学ぶ。	2 前	30	2	○			○		○	
	○			機器分析実習	HPLC と GC など分析機器の原理、操作法および試料中成分の定量法を習得する。	2 前	60	2			○	○		○	
		○		TOEIC講座Ⅰ	TOEIC受験のための講座。スコアアップを目指す。	2 後	15	1	○			○		○	
		○		動物細胞工学	動物細胞への遺伝子導入方法や導入遺伝子の解析法、また応用研究として、体細胞クローン、iPS細胞を使った再生医療などを学ぶ。	2 後	30	2	○			○		○	
		○		実験動物学	実験動物とそれらの飼育管理、取扱いの基本を学ぶ。	2 前	30	2	○			○		○	
		○		実験動物飼育管理法	動物福祉に即した実験動物の飼育法、実験データの取扱いなどを学ぶ	2 後	30	2	○			○		○	
		○		細胞培養概論	動物細胞の持つ特徴に合わせた培養法を学ぶ。iPS細胞、ES細胞などの株の確立法など最新の細胞培養技術も学ぶ。	2 前	30	2	○			○		○	
		○		植物分子細胞生物学	植物における遺伝子発現、タンパク質の生産などの分子生物学を学ぶ。	2 前	30	2	○			○		○	
		○		植物細胞工学	植物細胞への遺伝子導入方法や導入遺伝子の解析法などを学ぶ。	2 後	30	2	○			○		○	
		○		応用細胞培養実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	無菌操作、細胞の取扱い、細胞株の適切な培養方法、保存方法など動物細胞培養技術を習得する。	2 前・後	240	8			○	○		○	
		○		遺伝子工学実習Ⅰ・Ⅱ	遺伝子のクローニング技術、ブルーホライトアッセイの実験と理論、タンパク質の電気泳動法および免疫染色法などを学ぶ。	2 前	120	4			○	○		○	
		○		動物細胞工学実習Ⅰ・Ⅱ	動物培養細胞に外来遺伝子を導入し、細胞の機能および発現タンパク質の解析の原理と手法をする。	2 後	120	4			○	○		○	
		○		実験動物取扱実習Ⅰ・Ⅱ	実験動物2級技術者として必要な技術を習得する。特に日常管理、動物実験アシスト、簡単な卵操作技術補助などを習得する。	2 前・後	120	4			○	○		○	
		○		応用実験動物実習	実験動物1級を目指し、技術者として必要な技術を習得する。	2 後	60	2			○	○		○	
		○		タンパク質精製実習	試料からのタンパク質精製を行い、タンパク質の単離法とその取扱い法を習得する。	2 後	120	4			○	○		○	
		○		植物基礎実習	植物の形態観察、組織の観察で、植物の体制と各器官の働きを学ぶ。	2 前	60	2			○	○		○	
		○		植物組織培養実習	無菌播種、細胞培養、組織培養、カルス誘導と分化など植物細胞の培養と取扱いを習得する。	2 後	120	4			○	○		○	
		○		植物細胞工学実習	細胞融合、遺伝子導入などの手法を習得する。	2 後	120	4			○	○		○	
	○			プロ養成講座Ⅲ・Ⅳ	インターンシップに出る準備をし、現場に出るための資質を学ぶ。現場での自分の成長を考え、将来の進路を具体的にし、今すべきことを整理し、行動に移す。	3 前・後	60	4	○			○		○	
	○			就職対策講座Ⅰ・Ⅱ	就職対策としての文書作成、一般常識テスト対策、面接対策を実施する。	3 前・後	60	4	○			○		○	
	○			科学英語Ⅲ・Ⅳ	遺伝子工学、再生医療、タンパク質工学などの文献を読み、概要をまとめる。	3 前・後	60	4	○			○		○	
	○			生命倫理と研究倫理	生命を扱うバイオテクノロジー技術が関わる倫理問題を考え、また研究機関や研究所での行動について学ぶ。	3 前	15	1	○			○		○	
	○			知的財産管理技能検定3級	国家資格 知的財産管理技能検定3級の項目を学ぶ。	3 前・後	30	2	○			○		○	
	○			上級バイオ対策Ⅰ・Ⅱ	インターンシップを具体的に考える。さらにインターンシップと将来像を結びつける自己分析を学ぶ。	3 前・後	30	2	○			○		○	
	○			薬機法	再生医療等製品に関する規制など改正後の薬事法を学ぶ。特にバイオ医薬品、再生医療に関する法律を学ぶ。	3 前・後	30	2	○			○		○	
	○			ジャーナルクラブ	テーマを決めて研究論文あるいは専門書(原著)を読み、プレゼン、ディスカッションを通じて内容の理解を深める。	3 後	30	2	○			○		○	
	○			応用遺伝子工学	遺伝子工学的手法を用いた実際の研究手法を学ぶ。	3 前	30	2	○			○		○	
	○			実践総合実習Ⅰ・Ⅱ	卒業研究の事前学習を行う。研究テーマを決め、関連文献、情報を収集し、研究計画を立てる。研究計画に沿って、実験、検証を行い、テーマについての結果をまとめる。	3 後	240	8			○	○		○	
		○		遺伝子・タンパク質解析法	生命現象をつかさどる遺伝子やその産物であるタンパク質の構造および機能を解析するための様々な解析法について学ぶ。	3 前	30	2	○			○		○	
		○		分子微生物学	微生物の多様な機能について、その遺伝的・生理的な分子の構造機能を学ぶ。	3 前	30	2	○			○		○	
		○		遺伝子解析法	生命現象をつかさどる遺伝子やその産物であるタンパク質の構造および機能を解析するための様々な解析法について学ぶ。	3 後	30	2	○			○	○	○	○
		○		TOEIC講座Ⅱ	TOEIC受験のための講座。スコアアップを目指す。	3 前	15	1	○			○		○	

（農業専門課程 バイオテクノロジー科4年制）2022年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○			TOFLE	TOFLE受験のための講座。スコアアップを目指す。	3 後	15	1	○			○		○		
	○			データベース検索演習	DNA塩基配列・タンパク質アミノ酸配列データに関するデータベースやツールの使い方を中心に学ぶ。	3 前	30	2	○			○		○		
	○			免疫学	細胞および分子レベルの免疫機構を学ぶ。	3 前	30	2	○			○		○		
	○			応用実験動物学	実験動物技術者として必要な応用知識を学ぶ。	3 前	30	2	○			○		○		
	○			動物生理学	生体の正常な機能を機能系ごとに概説する。	3 前	30	2	○			○		○		
	○			組織学	細胞からの組織化、また、動物の各組織について学ぶ。	3 前	30	2	○			○		○		
	○			植物生理学	植物の生理的な性質を学ぶ。	3 前	30	2	○			○		○		
	○			応用遺伝子工学実習	RNA抽出法やRT-PCRなど、RNAの取扱、遺伝子の検出、発現の検出法を習得する。	3 前	120	4			○	○		○		
	○			遺伝子解析実習	DNA塩基配列決定の原理を学び、その基本技術を習得する。	3 後	60	2			○	○	○	○	○	
	○			タンパク質解析実習	タンパク質解析のための実験技法を取得する。	3 後	60	2			○	○	○	○	○	
	○			微生物解析実習	微生物解析のための実験技法を習得する。	3 前	60	2			○	○		○		
	○			抗体作成実習	精製タンパク質を用いた解析のための抗体作成法を習得する。	3 前	120	4			○	○		○		
	○			応用細胞工学実習	動物細胞への外来遺伝子導入、分化誘導法を学ぶ。	3 前	120	4			○	○		○		
	○			動物生理学実習	生体機能の調節・制御を実験動物を使って実験を行う。	3 前	120	4			○	○		○		
	○			植物生理学実習	植物や植物培養細胞を用いて、植物の生理作用を学ぶ。	3 前	120	4			○	○		○		
	○			植物病理学実習	植物の病徴や病原体の観察を行うと共に、病原体の培養や病原体の植物体侵入の経過などを学ぶ。	3 前	120	4			○	○		○		
	○			プロ養成講座V・VI	就職、進学に向けて実践的な知識・マナーを身につけ、インターンシップの情報共有をする。職業人・社会人としてのキャリアを考えるとともに基礎的な知識・マナーを確認する。業界で仕事をするため、大学院進学ための準備を進める。	4 前・後	60	4	○			○				
	○			卒研プレゼンテーション	卒業研究成果の報告、および卒業論文作成のための活用を学ぶ。	4 後	30	2	○			○		○		
	○			卒研英語Ⅰ・Ⅱ	卒業研究テーマに関する文献を検索して読む。	4 前・後	60	4	○			○		○		
	○			卒業研究Ⅰ・Ⅱ	卒業研究テーマに関する関係分野の調査、討論を行う。	4 前・後	720	24			○	○	○	○	○	
合計								5,448単位時間( 243 単位)								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
学期ごとに必須単数取得し、卒業時まで規定単位時間(3,738時間175単位)を履修し、学校長が適当と認めたものは卒業となる。								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。